

みなさんからの素敵な  
情報を待ってます！

## 豊かな心を育むために

### ドイツ在住ピアニストの演奏会

ドイツ在住で、主にヨーロッパを中心に活動しているピアニスト寺田まりさんのピアノリサイタルが、7月16日、白川中学校で開かれ、生徒や保護者、地区の皆さんなどが鑑賞しました。



寺田さんの「東京での演奏会の後、日本の学生と演奏を通じてふれあいたい」という願いから開催の運びとなったこのリサイタル。寺田さんは時折会話を交えながら、ベートーベンやショパン、シューマンなどの曲を熱演し、聴衆を魅了していました。

## 暑さに負けず精いっぱいプレー

### 登別市と少年スポーツ交流



姉妹都市登別市と白石市の少年たちによるスポーツ交流事業野球大会が、8月11日、益岡公園野球場で行われ、両市の選抜チームが対戦しました。

この日は、じりじりとした炎天下。子どもたちには過酷な条件となりましたが、暑さに負けず元気はつらつプレーを見せていました。

試合前日には、登別の子どもたちは白石の子どもたちの家庭にホームステイして交流を深め、夜には夏まつりパレードにも参加しました。

八月二日、国道一一三号の開通式が、市内二カ所で行われた。

小原苗振工区は、幅が狭く、しかも地滑り地帯で、非常に危険であったため、県が九十年代から改良を行い、白石川には新たに二百五十六メートルの「新小原大橋」が架かった。総事業費約六十七億円。

郡山工区は、一九八三年に事業に着手。東北本線はアンダーパス、つまり、トンネルで線路をくぐるようにした。総事業費約六十二億五千万円。

これによって国道一一三号は、近代的な道路に生まれ変わったが、完成までには郡山工区は十九年、苗振工区は十二年という期間を必要とした。これは、新



川井市長の  
せせらぎトーク

## ■ 国道 1 1 3 号 ■

小原大橋とか、東北本線のアンダーパスとかいうような、大きな事業費と技術を要する部分があったことが最大の理由だ。

とにかく予算要求には、当時の建設省にお百度参りをしたものである。今でも思い出すことがある。あまりにも工事の進捗状況が遅かったので、建設省道路局に陳情に行つた私は、思い切つたジョークを飛ばした。

「国道課長、国道一一三号は、ぜひゆつくりとやってください。」  
「どうして。」と課長が言うから、

「現在走っている一一三号の私の家の近くは、通称彦助横丁という通りです。天下の国道が旧藩時代からの横丁をそのまま使っている

のは、将来日本でただ一つになるでしょう。大変有名になって、宣伝効果が大きいと思いますから。」

私の家内は山形県高島から嫁いできました。夫婦喧嘩をしても今の一一三号では、すぐに家を飛び出して実家に帰ることはできません。私はその方が都合がいいですから、高島に抜ける道路もゆつくりの方がいいんです。」

当時一一三号の最大の事業は、二井宿道路である。

これは、本来は山形県がやる事業であるが、直轄代行事業と云って、県に代行して国が行っていた。

私の「ゆつくりやれ」を聞いて、当時の島津高島町長は、飛び上がった。

「いやいや、課長。今の川井会長の言うことなど聞かず、ぜひ早く一一三号を完成をさせていただきたい。会長の奥さんが仮に実家に戻ったとしても、後悔して帰ってくる場合、スムーズに帰って来れるようにしてほしいからであります。」

これには当時の国道課の人たちも腹をかかえて笑ったものである。

そしてまず二井宿道路が完成した。ところが二井宿道路が完成しても、新小原大橋ができないうちは、実際に大型車は一一三号を走れなかった。

そもそも国道一一三号整備促進期成同盟会は、主要地方道白石中村線と白石米沢線の改良を促進するために、国道昇格を目指し、昭和四十四年に国道の指定を受けたのを継いで、発足した。当時会長は麻生寛道白石市長、副会長は横山宗延相馬市長、新野広吉高島町長で、以来、長年の努力が今、実を結ぼうとしている。

テーブルカットの時に思った。結成時の会長、副会長をはじめ、あの時建設省へ一緒に行つて大笑いをした高島の島津町長、七ヶ宿の安藤町長も、既に世を去っている。長い長い道のりを汗を流して歩まれた、先人たちに、心から感謝を表したい。